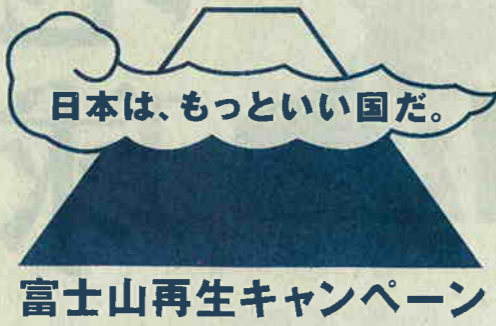


# 率直率先ゴミ拾い



「日本は、もっといい国だ。」

**富士山再生キャンペーン**

場面は一転、2月23日、東京・日比谷公園に近い、日本記者クラブホール。富士山クラブ主催の「富士山の目撃フォーラム」が開かれ、神田さんはクラブ会員有志が作品制作した「宝永噴火300年 山は震え、江戸は騒ぐ」と題した新作講談を約1時間披露した。大量の火山灰を降らせた1707年の大噴火を生き抜いた御厨地方の村人と、復興を助けた関東郡代の猷身的な取り組み、一方で全国の諸大名らか

ら集めた復興資金を、他にかなり流用してしまっただけの対応を現代社会に照らして風刺した。

初演を振り返った神田さん。「現代にも通じる苦笑するような話を交え、富士山をよみがえらせた人たちの思いを代弁するつもりで演じた。それをつと、私たちは噴火とは違う、ゴミを捨てるという形で富士山をいわば、死滅させているのではないか。清掃活動は復興の新たな手法のように感じる」

**前** 日の風雨も上がり、青空がのぞいた4月半ば、富士山のふもと・西湖に近い青木ヶ原樹海。つややかな花模様の長靴を新調した神田紫さんは、直径40センチほどの白いプラスチックおけを拾い、中の泥を落として、さっそく清掃活動に取り組んだ。

「そこ、その場所ね、他のグループがゴミ拾い活動するから」と、引率するNPO富士山クラブのチムリーターにいわ

れ、パチリ、パチリとカメラマン役をこなしていた私は「紫さん、そのおけはそこに置いて、移りましょう」と声をかけた。とたん、おなじみ、講談の張り扇をパパン、パパン、パパンと打つかのように、神田さん。「真田さんね、私のポリシーがらいつて、もう拾ったゴミをそのまま、置いておけるわけないじゃないの。私の現場写真も撮っているし、それじゃ、やらせになるでしょー」



富士山清掃活動に参加し、プラスチックおけを回収する神田紫さん—山梨県の青木ヶ原樹海で4月19日、真田撮影

「富士山をきれいにする、とか、もったいない、とか取り組んでいると、周囲で『紫は、かっこつけている、といわれたいか』と心配してくれる人がいる。講談はアクの強さで前に押し出すので、言葉も説明もこれでもか、これでもか、というほど語調が強くなる。それだけに、そういうふうな受け止め方をされるかもしれない。でも、私は語りたことを語る。やりたいことをやる。その結果、世の中の意識が少しでも変われば、もう、これはちりも積もれば山となる」

富士山3776m。ちりも積もれば、と齢五十余にして始めた清掃活動。張り扇をパパン、パパン、パパンと打つ思いで、今夏は初めて富士山頂に挑む。

【真田和義】

## 張り扇のように 講談師神田紫さん(56)



宝永大噴火を題材にした新作講談を通じ、富士山再生を語る神田紫さん —東京都内で4月22日、山田茂雄撮影

## 復興へ私ができること

### 神

戸出身。上京以来、故郷と行き来する新幹線の窓から眺める美しい富士山に魅せられた。さらに人生はわからない。友人を通じて3年前、ケニアのノール平和賞受賞者、ワンガリ・マータイさんと毎日新聞が提

かんだむらさき 1951年生まれ、神戸市出身、小沢昭一主宰 劇団芸能座を経て、講談の二代目神田山陽に師事。日本講談協会会長、落語芸術協会会員。千葉県松戸市「もったいない大使」を務める。

「富士山をきれいにする、とか、もったいない、とか取り組んでいると、周囲で『紫は、かっこつけている、といわれたいか』と心配してくれる人がいる。講談はアクの強さで前に押し出すので、言葉も説明もこれでもか、これでもか、というほど語調が強くなる。それだけに、そういうふうな受け止め方をされるかもしれない。でも、私は語りたことを語る。やりたいことをやる。その結果、世の中の意識が少しでも変われば、もう、これはちりも積もれば山となる」

富士山3776m。ちりも積もれば、と齢五十余にして始めた清掃活動。張り扇をパパン、パパン、パパンと打つ思いで、今夏は初めて富士山頂に挑む。

【真田和義】